

## 風評対策強化指針関連データ集

- 各国における食品中の放射性セシウム濃度の基準値(ベクレル/kg)……………1
  
- ＜強化指針1関係＞
  - 26年産の福島県の米の全袋検査結果等……………2
  - 海産物の調査結果……………3
  
- ＜強化指針2関係＞
  - 食品中の放射性物質等に関する意識調査(第5回)結果……………4
  
- ＜強化指針3関係＞
  - 福島県産農産物の販売状況等について……………5
  - 観光客中心の宿泊施設(従業者数10人以上)の延べ宿泊者数(H22年比) ……6
  - 福島県教育旅行入込数推移……………7

# 各国における食品中の放射性セシウム濃度の基準値 (ベクレル/kg)

○ 世界で最も厳しいレベルの基準値に基づく放射性物質検査の徹底による食品安全の確保。

日本 食品衛生法の 基準値		EU Regulation (Euratom) No 3954/87		アメリカ CPG Sec. 560.750 Radionuclides in Imported Foods – Levels of Concern		コーデックス CODEX/STAN 1939– 1995	
飲料水	10	飲料水	1,000	飲料水	1,200	乳幼児用食品	1,000
牛乳	50	乳製品	1,000	牛乳	1,200	一般食品	1,000
乳児用食品	50	乳幼児用食品	400	乳幼児用食品	1,200		
一般食品	100	一般食品	1,250	一般食品	1,200		
● 介入レベルを年間1mSvと設定し、一般食品では、50%が基準値相当汚染されていると仮定		● 介入レベルを一般食品で年間1mSvと設定し、全食品の10%が規制値相当汚染されていると仮定		● 預託実効線量5mSvを採用し、食事摂取量の30%が汚染されていると仮定		● 介入レベルを年間1mSvと設定し、全食品の10%が汚染地域由来と仮定	

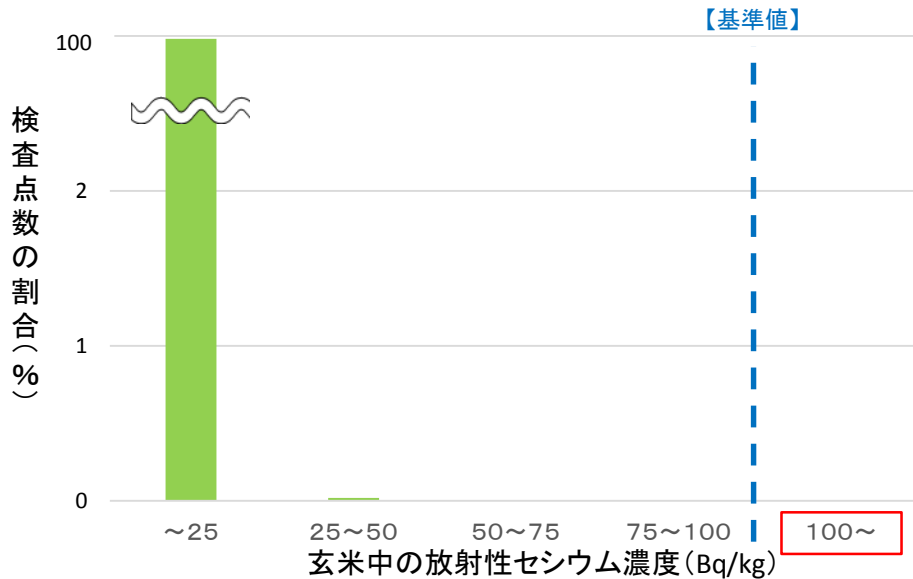
※上記における基準値は、受ける線量を一定レベル以下にするためのものであり、必ずしも安全と危険の境目となるものではない。

# 26年産の福島県の米の全袋検査結果等

- 福島県では、24年産米及び25年産米と同様、26年産米でも県全体で全袋検査(27年5月20日時点で約1,099万袋)を実施。検査結果はすべて基準値(100ベクレル/kg)以内。
- 米については、作付制限、吸収抑制対策及び収穫後の検査を組み合わせることにより安全確保を図る。
- 農地の反転耕等による除染やカリ施肥等による吸収抑制対策を実施。

## 26年産の福島県の米の全袋検査結果

【平成27年5月20日現在】

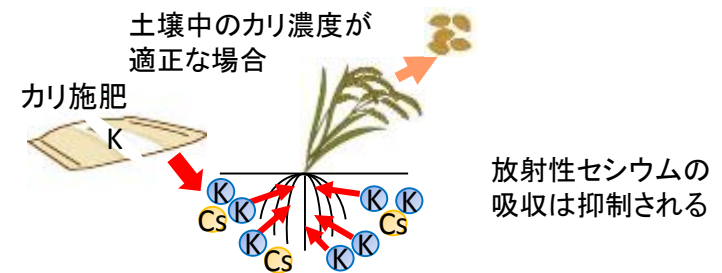


玄米中の放射性セシウム濃度(Bq/kg)	平成26年産	
	検査点数	割合(%)
~25	10,986,629	99.98
25~50	1,909	0.02
50~75	12	0.0001
75~100	2	0.00002
<b>100~</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
合計	10,988,552	100

## 米の全袋検査



## カリ施肥による稲の吸収抑制対策



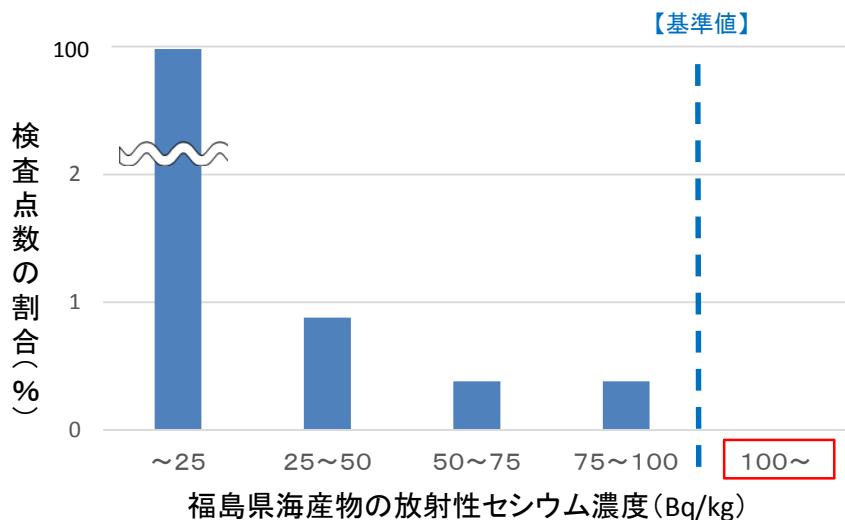
# 海産物の調査結果

平成27年4月30日現在

- 基準値を超えている魚種は、国からの出荷制限指示等が出されているため、いずれも市場に流通しないよう措置がなされている。なお、福島県では、試験操業を除き、沿岸漁業・底びき網漁業を自粛中。
- 福島県及び福島県以外の海産物の平成27年4月期の検査結果はすべて基準値(100ベクレル/kg)以内。

## 福島県海産物の調査結果

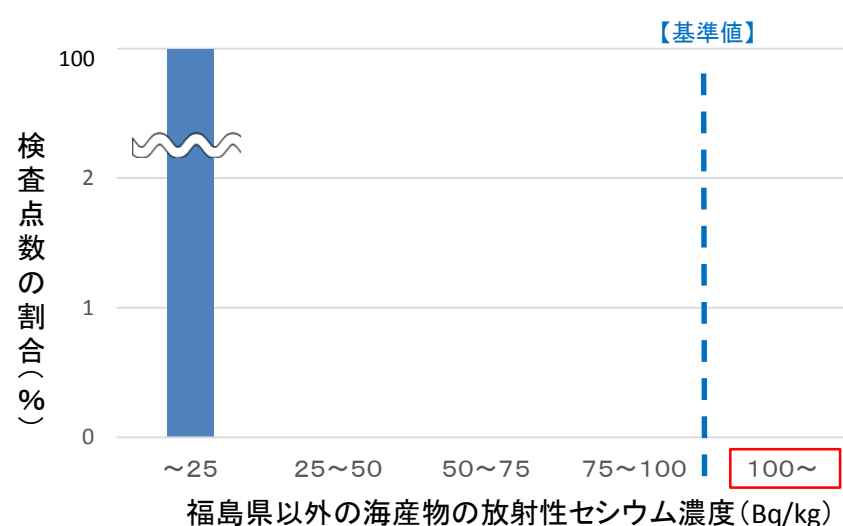
【平成27年4月30日現在】



福島県海産物の放射性セシウム濃度 (Bq/kg)	平成27年4月期	
	検査点数	割合
~25	787	98.38%
25~50	7	0.88%
50~75	3	0.38%
75~100	3	0.38%
<b>100~</b>	<b>0</b>	<b>0.00%</b>
合計	800	

## 福島県以外の海産物の調査結果

【平成27年4月30日現在】

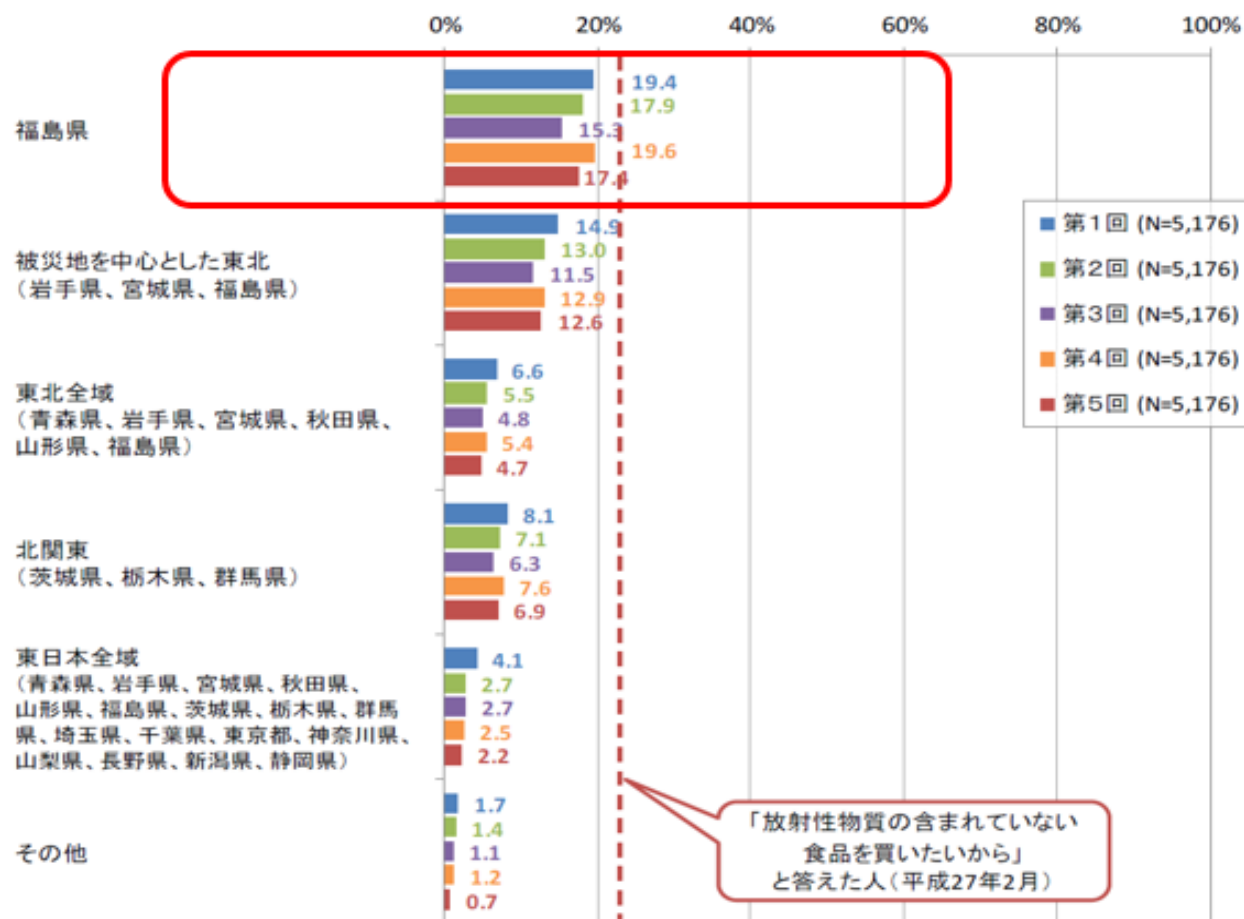


福島県以外の海産物の放射性セシウム濃度 (Bq/kg)	平成27年4月期	
	検査点数	割合
~25	758	100.00%
25~50	0	0.00%
50~75	0	0.00%
75~100	0	0.00%
<b>100~</b>	<b>0</b>	<b>0.00%</b>
合計	758	

# 食品中の放射性物質等に関する意識調査（第5回）結果

- 強化指針1のとおり、食品等については、ほとんどが基準値以内であるにもかかわらず、福島県を中心とした被災地産品の購入をためらう消費者が一定程度存在。
- 消費者庁の実態調査によると、食品を買うことをためらう産地を「福島県」と回答した人は、第5回調査（平成27年2月）では17.4%。前回調査よりも減少。

## 食品を買うことをためらう産地



第1回：平成25年2月  
第2回：平成25年8月  
第3回：平成26年2月  
第4回：平成26年8月  
第5回：平成27年2月

# 福島県産農産物の販売状況等について

## 価格の状況

### きゅうり

- ◆ 23年は全国的な高値基調の中、福島産も下落せず**103%**
- ◆ 24年は全国的な豊作基調の中、福島県産が売れ残る傾向となり**70%**
- ◆ 25、26年は全国的な高値基調(福島県産**119%~125%**)

	23年	24年	25年	26年
全国(平年比)	114%	80%	128%	128%
福島(平年比)	103%	70%	119%	125%

資料:東京都中央市場卸売会社協会調べ

注:7月~9月の累計。平年比は、平成18~22年の5カ年平均との比較。

### もも

- ◆ 23年は贈答品需要の減少分が市場に流れたこともあり、**52%**
- ◆ 24年は消費拡大運動等により贈答品用の買い控えが減ったこともあり、**84%**まで回復
- ◆ 25年は、8月上旬まで高値であったが、8月中下旬の出荷集中に伴い値を下げたこともあり、**85%**
- ◆ 26年は、概ね平年並で推移したが、7月下旬から8月上旬に、他産地と出荷が重なり、平年を下回ったため、**87%**

	23年	24年	25年	26年
全国(平年比)	83%	103%	105%	103%
福島(平年比)	52%	84%	85%	87%

資料:日本園芸農業協同組合連合会調べ(関東市場データ)。

注:7月下旬~9月上旬の累計。平年比は、平成19~22年の4カ年平均との比較。

### アスパラガス

- ◆ 23~25年とも全国的には高値基調の中、福島産は平年並み又は平年をやや下回って推移(**94%~101%**)
- ◆ 26年は全国的な高値基調(福島県産**113%**)

	23年	24年	25年	26年
全国(平年比)	116%	114%	112%	127%
福島(平年比)	101%	94%	99%	113%

資料:東京都中央市場卸売会社協会調べ

注:5月~8月の累計。平年比は、平成18~22年の5カ年平均との比較。

### トマト

- ◆ 23年は全国的な高値基調の中、福島産も下落せず**110%**
- ◆ 24年は全国的な豊作基調の中、福島県産が売れ残る傾向となり**86%**
- ◆ 25、26年は全国的な高値基調の中、福島産は平年並みの**99%~104%**

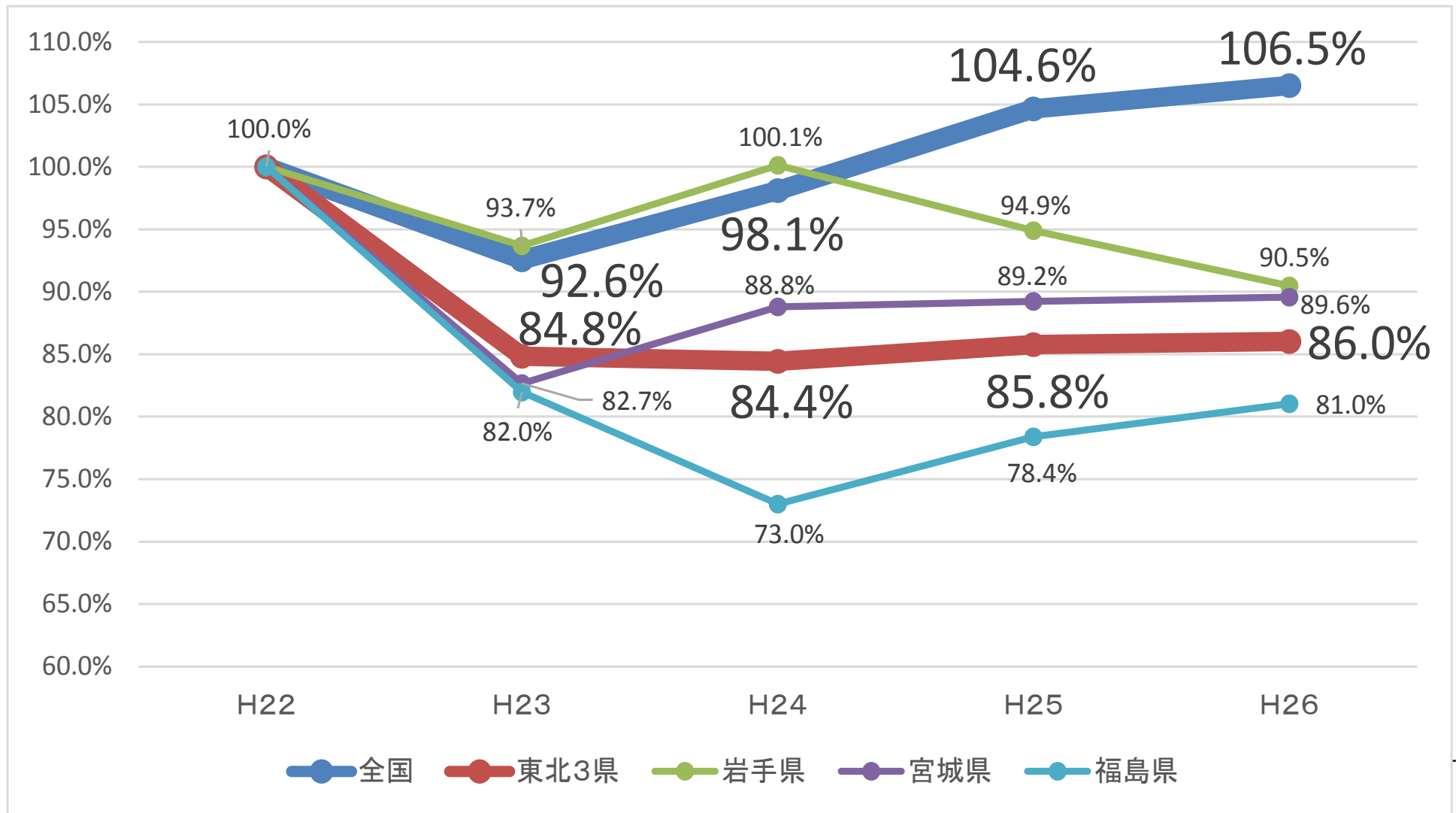
	23年	24年	25年	26年
全国(平年比)	119%	97%	114%	109%
福島(平年比)	110%	86%	104%	99%

資料:東京都中央市場卸売会社協会調べ

注:7月~9月の累計。平年比は、平成18~22年の5カ年平均との比較。

# 観光客中心の宿泊施設（従業者数10人以上） の延べ宿泊者数（H22年比）

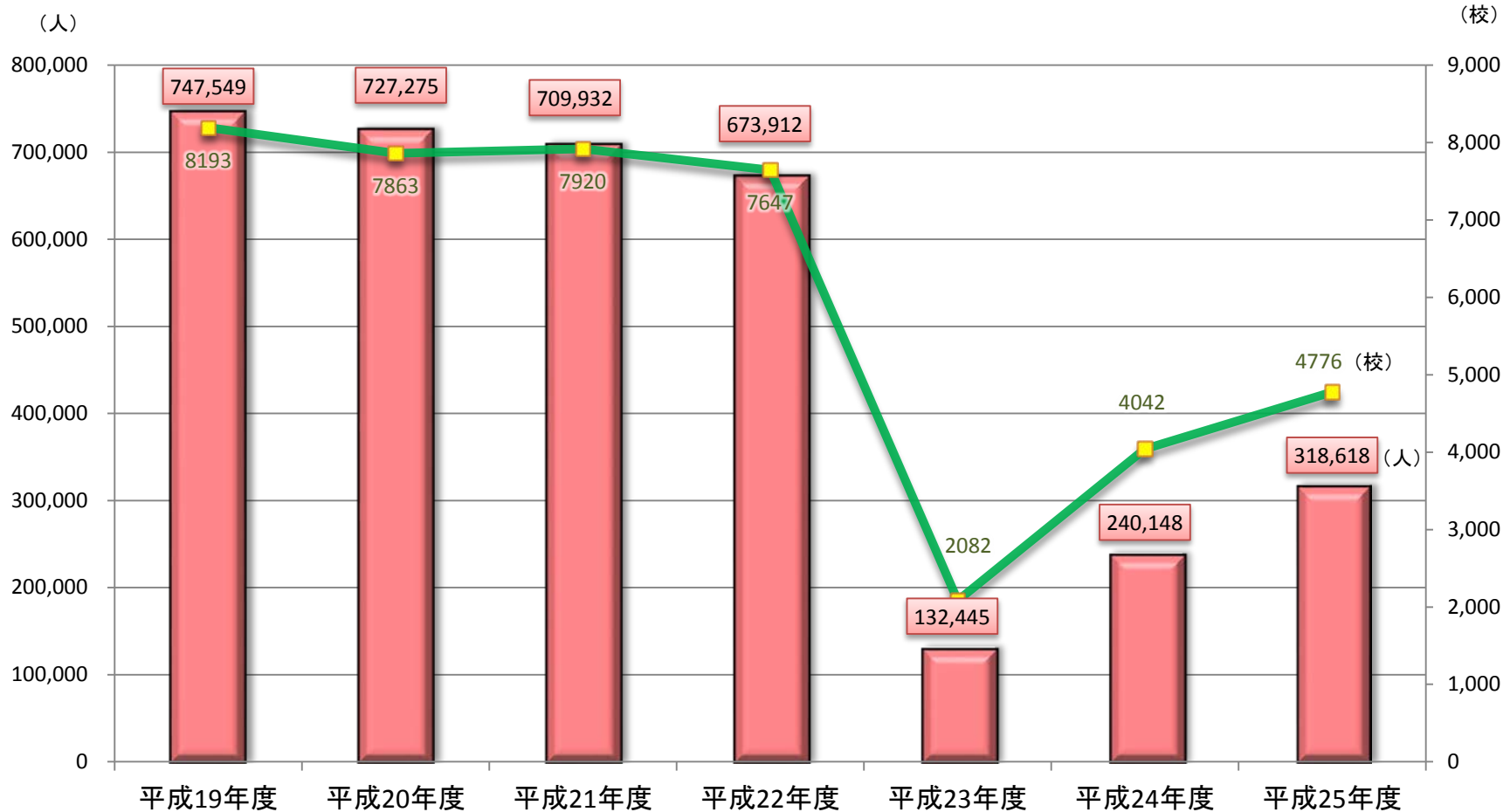
○ 震災前のH22年比で全国が106.5%まで伸びているのに対し、福島県が81.0%に留まっていることも影響し、東北3県においては86.0%と厳しい状況が続いている。



【出典：観光庁宿泊旅行統計】

# 福島県教育旅行入込数推移

- 福島県ではこれまで延べ宿泊数で年間70万人を超える子どもたちを受け入れてきた。
- しかし、東日本大震災及び福島第一原発事故による風評被害などの影響で、平成23年度は約13万人と震災前の2割まで減少。平成25年度は約32万人と震災前の4割5分ほどまで回復してきているものの、依然として厳しい状況が続いている。



※教育旅行を目的に福島県に宿泊した小学生～大学生までの宿泊延べ人数及び学校・団体数